

お上意識



「清と濁」の戦い、「公と私」の戦いが、明治六年政変であった。「清」は「濁」の前に敗れ去った。大久保は薩摩に属しながら、長州の「濁」を守る存在として行動し、「清」の巨星であった江藤新平や西郷隆盛を抹殺したのである。この明治六年政変以来、官による私利の追求が、日本の支配者の底流を流れ続

けてきた。それが、いまや日本を覆い尽くすように蔓延している。

人類を滅亡させかねない深刻な核事故が発生したにもかかわらず、原発推進に一斉に足並みを揃える利権複合体の存在は、この国の中枢が、私利だけを追求する悪徳集団と化していることを象徴的に示している。

公務員は本来、国民に対する奉仕者である。自分のためではなく、国民のために行動する存在、国民のために全力を尽くすのが、一般公務員および特別職公務員である国会議員の役割だ。

ところが、多くの政治家の頭に、この発想は存在しない。菅直人政権の執行部を見る限り、政権交代が本来目指した方向など、完全に忘れ去られたかのようである。

第二は、官や政治家が、自分たちを「お上」だと勘違いしていることだ。戦後憲法においては、日本の主権者は官僚でも政治家でもない。一般国民こそ主権者なのだ。

官僚も政治家も、国民のために尽くす存在、国民に対する奉仕者である。震災、原発事故で、多くの同胞が巨大な苦しみを受けている。このようなときに、政府が迅速に行動し、

被災地や被災者のために全力をあげて行動することは、主権者国民の意思に基づいて決定されたことであり、その決定に基づいて、国民に対する奉仕者である官僚や政治家は、まさにこまねずみのように働かねばならぬ存在なのだ。ソファにふんぞり返って、「やってやる」などと語る大臣の姿勢は、それだけで行政官失格の行動だ。

濡れ手に乾き

仕事で成功している人には、ある共通点がある。それはとんでもないがむしやんな努力家で、かつ行動家であること。成功する可能性は死にもぐるいでも、5%にも満たないのが実際なのに。しかし、一生懸命した実際が、自分に満足感を与え、内側から輝いている。

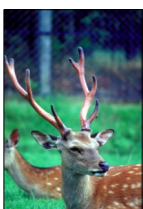
昭和初期から現代日本を見れば、別世界、夢の国です。地上に未来国家・天国？の出現です。

我々は今、数々の通信電子機器の進歩により、大きな力を手に入れ始めています。もうと技術は進歩し、それぞれ各人が、神の領域に近づき、しかし、その認識と謙虚さは足りない。

地獄への領域

までどんな活路を開いたのか。男も女もサラリーマンからビジネスマンに、自ら羽化しようとしていない人はいない。奴隷に納

いま、日経平均は増税ができなことを織り込んで



(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2011年7月14日 (木) NO. 210

地域から明るい未来を作ろう

お盆休み・8月15日～16日

人を思いやる心、自然を愛おしむ心、宇宙の法則に従う心。自分にはどんなことが出来るのか、どんな力があるのか、これ

得、身を落とし売る人はいない。ビジネスマンは働きカネを稼ぐ人だ。

どきどきの火事場泥棒「消費税増税」は悪魔の領域だ。財務省は悪魔にも等しい。追米のアホか。